

専攻科福祉専攻 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー		求められる人間像											
<p>専攻科福祉専攻は、本学の「文化の向上を目指し、創造性豊かな人間性溢れる人格の形成と新しい時代に適応する職業的教育」を目的として、「地域福祉に貢献し得る社会人（市民）、職業人として、心身ともに健全な人格の形成者を育成する」ことを使命とした建学の精神と教育理念に基づいて、以下の基準を満たしていることを、専攻科福祉専攻の介護福祉士の修了証が授けられる。</p> <p>1) 介護福祉士の専門的な知識・技術を修得し、実践する能力を身につけている</p> <p>2) 他の職種との役割を理解し、チームに参画する能力を身につけている</p> <p>3) 利用者の状況についてアセスメントし、計画的に介護が提供できる能力を身につけている</p> <p>4) 個別の状況に応じたコミュニケーション能力を身につけている</p> <p>5) 人権擁護の視点や職業倫理を身につけている。</p>		<p>ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーを踏まえ、求める学生像は以下のとおりである。</p> <p>1) 保育の学びをいかして生活支援が必要な子どもから高齢者に対して専断を遵守した関わりができる能力を身に付けることができる人</p> <p>2) 介護の専門的な知識や技術(技術)を習得し豊かな人間性を備えた支援者をめざすことができる人</p> <p>3) 医療職等の専門職と連携協働ができ、常に介護に対する探究心をもち課題解決に取り組もうとすることができる人 である。</p>											
カリキュラムポリシー		1. 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける	2. あらゆる介護場面共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する	3. 介護実践の根拠を理解する	4. 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発掘させることの意義について理解できる	5. 利用者本位のサービスを提供するための、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる	6. 介護に関する社会保険の制度、施策について基本的理解ができる	7. 他の職種の役割を理解し、チームに参画する能力を養う	8. 利用者ができるだけな残存能力を最大限に活用し、自立支援に資するサービスを提供できる能力を身につける	9. 円滑なコミュニケーションの取組の基本的な能力を身につける(障害に合わせた)	10. 的確な記録・記述・発表の方法を身につける	11. 人権擁護の視点、職業倫理を身につける	
1. 教育目標	<p>本学の教育理念に則り、保育士養成施設の卒業生を対象に、介護福祉の知識と技能を習得し、人権を尊重し健康的な日常生活を支える科学的思考と文化的かつ創造的な人間性を併せ持つ感性豊かな専門的職業人の養成を目標とする。</p> <p>専攻科福祉専攻では、「人間と社会」「こころからだのしくみ」の4領域に科目を分類して、カリキュラム編成をしている。</p> <p>1) 介護福祉士に関する講義・演習・実習等を通して、支援を必要とする人たちの人間理解を深め、専門職としての倫理的態度を涵養する。</p> <p>2) 介護に関する医学・リハビリ・栄養学など他職種についての学習を通じ、他職種と連携協働できる知識・能力を養う。</p> <p>3) 障がい者・高齢者施設で段階的な実習を行うことにより、理論と実践の融合化を図り、介護の実践力を養う。</p> <p>4) 地域活動を通して、支援を必要とする人々を取り巻く環境の重要性を理解し、介護の専門職としてリーダーシップをとる。</p>												
領域	授業科目	到達目標											
人間と社会	介護福祉制度	社会保障制度及び介護福祉の制度について理解することができる。また、福祉現場におけるマネジメントの基礎を理解することができる。							○				
	介護福祉基礎学 1	介護福祉士を取り巻く状況から、介護福祉士の職種の背景と介護福祉士の社会的役割について理解することができる。			○							○	
	介護福祉基礎学 2	介護におけるリスクマネジメント、また介護従事者の健康管理について学び、安全かつ安心できる介護サービスの提供と信頼の獲得の重要性を理解することができる。		○									
	介護福祉基礎学 3	人間の尊厳と自立を支える介護について理解ができる。また、誰もが人間としての尊厳が認められ、生活者として主体的に生きていくことを可能にするための人権尊重を基盤とした介護観を習得することができる。										○	
	介護福祉基礎学 4	人間の多様性及び高齢者の暮らしの実際、障害のある人への理解と暮らしの実際など、介護を必要とする人の生活環境や考え方を理解し、介護を必要とする人への理解ができる。生活支援としての介護サービスのあり方や介護従事者としての基本姿勢を理解できる。介護サービスの特性、及び介護サービスの実践におけるチームケア、多職種連携・地域連携の実際を知り、医療・保険・福祉の他の職種との連携の意義と目的、必要性を理解することができる。					○		○				
	コミュニケーション技術 1	1) 介護におけるコミュニケーションの目的・意義について理解し、自分の言葉で説明することができる。 2) 利用者・家族との関係づくりについて理解し、言葉で説明することができる。 3) さまざまなコミュニケーション能力について理解し、演習を通してその基本を身につけることができる。 4) 感覚機能・運動機能・認知機能などが低下している利用者についての理解を深め、利用者の状況に応じた必要能力を身につけることができる。 5) 対人援助チームの一員として、グループワーク、ミーティング、カンファレンスのあり方を理解するとともに、そのために必要なコミュニケーション能力の基本を身につけることができる。	○										
	コミュニケーション技術 2	プレゼンテーションの技術を学びながら実際に人前で発表することを通して、社会人として求められるプレゼンテーション・スキルを高めることができる。										○	
	生活支援技術 1	1) 介護を必要とする人の尊厳と自立を守る重要性を理解できる。 2) 生活支援の意義、目的を理解できる。 3) ICFの観点から生活支援のあり方をアセスメントできる。 4) 適切な自立支援を行うときの視点や留意点について理解できる。 5) 他職種の役割と協働について理解できる。		○									
	生活支援技術 2	環境、食事・排溺・入浴・清潔保持・身支度の介護実践に必要な生活支援の基礎的な知識・技術を体験学習(デイサービス・デイサービス・グループホームなどの施設)を通して習得する。											
	生活支援技術 3	介護サービスを受ける利用者及びその家族の日々の生活が生き生きしたものになるよう、心身の支援を行うことができる。 1) アクティブエイジサービスについての理解ができる。 2) 昭和という時代について理解できる。 3) 昭和の文化を理解できる。		○									
	生活支援技術 4	介護福祉士に必要な「移動」を安全に行うための理論を理解し、実践するための技術を習得する。		○									
	生活支援技術 5	衣食住環境において高齢者や障害者の自立に向けた介助において、介護福祉士として取得しておく必要のある技術を基礎から学び、自ら実践的に活用できる能力や利用者の個別に対応できるための能力を習得する。		○									
	生活支援技術 6	1) 自分の人間観や死生観を深め、尊厳の守られた死について考えを構築することが出来る。 2) 死にまつわる社会的問題や考え、高齢者の理想的なend of lifeの過ごし方を考えることが出来る。 3) 高齢者の終末期の介護において、介護福祉士の果たすべき役割を理解しターミナルケアに対応できる能力を養うことができる。		○									
介護	介護過程 1	1) 介護過程の意義と目的を理解する(介護過程の展開のプロセスを理解する)。 2) 他の科目で学習した知識や技術を統合して基礎的なアセスメントができる。 3) 他の科目で学習した知識や技術を統合して基礎的な計画の立案・実施・評価ができる。 4) 事例学習をとおして介護過程の基礎的な展開ができる。								○			
	介護過程 2	1) 利用者のよりよい生活支援を行うために事例を通して介護過程について学ぶ。 2) ICFの活用してアセスメント力を高め、介護を計画立案することができる。 3) 利用者を取巻く他職種との連携をもつことができる。								○			
	介護過程 3	1) 実践的な「介護過程の展開」とは何かを理解し、介護福祉士として求められる専門性を自覚することができる。 2) 介護福祉士としての理念・職業倫理・死生観をもち実践的な「介護過程の展開」のスキルを身につけることができる。 3) 介護福祉士として、「介護過程の展開」におけるチームアプローチの重要性を理解することができる。					○		○				
	介護過程 4	1) 利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開できたかどうかを考察することができる。 2) 他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供ができたかどうかを評価することができる。 3) 介護実践で行った介護過程を振り返り、プロセスを整理し、パワーポイントを作成してプレゼンテーションすることができる。 4) 他者の介護実践の根拠の有無に気づき科学的な介護を展開する重要性を理解できる。 5) 自己の介護実践の根拠の有無に気づき科学的な介護を展開する重要性を理解できる。				○					○		
	介護総合演習 1	介護実習前に実習に行く施設の確認や基本的な約束事項及び、生活支援技術などのオリエンテーションを行う。また、実習中では、必要に応じた指導や実習の情報を交換を行う。個別に応じた指導も行う。介護総合演習は、実習と組み合わせた学習である。 1) 介護実習に向けて実習前は、心構え、予備知識を身につける。 2) 介護実習中は職員の学生が持つ関心や疑問、不安を解消し、自信をもって実習に臨むことができる。 3) 実習後は、自己の実践内容を分析し、考察し、自己覚悟へとつながり、高い専門性を確立性を養う。										○	
	介護総合演習 2	介護実習前に実習に行く施設の確認や基本的な約束事項及び、生活支援技術などのオリエンテーションを行う。また、実習中では、必要に応じた指導や実習の情報を交換を行う。個別に応じた指導も行う。介護総合演習は、実習と組み合わせた学習である。										○	
	介護実習 1	住み慣れた地域や家で生活を支援するためのサービス：通所サービスといわれる日中の在宅支援サービスの実際を学ぶ。 1) デイケアサービス・デイサービス・生活介護・訪問介護サービスを通して在宅支援の在り方やサービスの概要が理解できる。 2) 利用者の時間・空間、1日間の在宅生活を知り、在宅におけるサービスを受けている利用者や家族の現状と課題を知る。 3) 利用者に対して基本的なコミュニケーション方法を学ぶ。 4) 報告・相談・連絡、記録をすることができる。 5) 主体的に自己を振り返り、目標や課題を挙げる事が出来る。										○	
	介護実習 2-1	個別ケアを行う際の生活のリズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供を基本とする実践力を習得する。									○		○
	介護実習 2-2	自己の受け持ち利用者で、これまで、或いは、現在、今後において他職種がどのように関わってきたかを知り、連携の在り方を学ぶ。現在、介護計画において、どの職種とどのような連携が必要かを習得する。				○			○				○
発達と老化の理解		1) 老年期を発達段階の最終章と捉え、心の変化と特徴を学び生活支援のアセスメントに役立てることが出来る。 2) 高齢者特有の性格などを学び、エビデンスに基づく日常生活支援を考えること。 3) 高齢者の尊厳とQOLについて考え、自分の介護観を養う。 4) ボランティア参加を最小1回は出席のこと、開催内容等については、担当者より提示する。			○							○	
こころからのしくみ	認知症の理解	認知症の基礎的理解を行い、介護者の心理、認知症のケアと権利を守ること学ぶ。家族の支援、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。			○							○	
	障害の理解	1) 様々な障害の基礎的理解ができる。 2) 様々な障害のある人の生活の支援方法を理解できる。 3) 様々な障害のある人の社会参加の意義が理解できる。 4) 様々な障害者の家族の支援の必要性が理解できる。 各障害に伴う講義目標は、講義で示します。ただし、聴覚障害については、以下示します。 コミュニケーションが聴覚障害者支援の質の善し悪しを左右する。安心できる支援をするにはどうすればいいのか、聴覚障害者・者支援の基本と実践技術の習得をめざす。			○							○	
	こころからのしくみ	1) 高齢者のこころのしくみについて学習する。高齢者の精神的健康について基本的な状態を知る。 2) 生活支援技術の根拠となる人体の構造、機能を理解する。				○						○	
医療的ケア	医療的ケア 1	医療的ケア実施にあたっての基礎知識として、関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握などを学習する。		○	○			○	○				
	医療的ケア 2	医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な基礎知識を習得する。		○	○			○		○			○